

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20530255

研究課題名(和文) アジアの経済発展モデル:その類型・理論・実証分析

研究課題名(英文) Asian Economic Development Model: Pattern, Theory, and Empirical Analysis

研究代表者

阿部 茂行 (ABE SHIGEYUKI)

同志社大学・政策学部・教授

研究者番号：60140076

研究成果の概要(和文): アジア経済は1997年の通貨危機に引き続き、リーマンショック以降の欧米不況により深刻な影響を受けた。その理由は高度成長が外資誘致による輸出振興が生み出した生産ネットワーク、そして比較優位構造の類似にある。技術移転をはかり、輸出先の多角化、輸出産業の差別化、国内と地域内の需要創出を早急に測る必要がある。セーフティ・ネット等の充実も課題の一つであり、後発アジアの発展のためには国際機関によるインフラ建設の重要性も否めない。

研究成果の概要(英文): Asian Economies have been affected seriously from the recent Lehman shock and the 1997 Asian Currency Crisis. One of the reasons is the similarity of comparative advantage structures created by the production network, which was spurred by export led growth strategy helped by inviting foreign direct investment. Technology transfer, diversification of export markets, comparative advantage differentiation, and domestic and regional demand creation are among the options to take. Provision of safety-net is one of the important requirement for healthy development and in particular for lower income Asia infrastructure building becomes very important and this can be achieved by coordination of international agencies.

交付決定額

(金額単位: 円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：経済発展モデル、アジア、部品貿易、生産ネットワーク、比較優位、GMS、直接投資

1. 研究開始当初の背景

アジア経済の発展は世界の注目を集めて久しい。世界銀行は『東アジアの奇跡』(1993年)で、マクロ経済条件が整備され、国内投資と人的資本が大幅に拡大、政府のガイドライン

が適切に行なわれ、かつ市場をうまく機能させたことが東アジア諸国の成長の要因であるとした。アジアの多くの国々は外国投資を誘致し、輸出促進の経済開発を推進した。1997年にアジア経済危機が発生、奇跡には脆弱性

があることが明らかとなったが、この経済危機に対しても、アジア各国はそれぞれ異なった対応をみせ、概ね素早く制度を改革し、新たな成長を加速させた。2003年、ゴールドマン・サックス社はBRICs(ブラジル、ロシア、インド、中国)に注目し、その経済規模が2039年にはG7を上まわるとを喧伝した。特に巨大な人口をかかえる中国とインドがその将来のビジネス・チャンスの大きさからさらなる注目を集めることとなった。中国は外国資本を梃子に輸出促進の経済成長を遂げたが、対米、対EUに巨額の貿易黒字が発生し、人民元の切り上げ圧力に苦慮している。インドはその規模に比して製造業が弱い、その一方、サービス産業、ことにIT関連産業が非常に強い。ASEANはASEANでまた各国独自の発展の様相を呈してきた。こうした観察から、アジアの経済発展モデルの類型をしっかりと把握しなおし、途上国で比較的初期の開発段階で採用された典型的な政策は、外貨節約のための輸入代替工業化、その後、必要な外貨をも同時に稼ぐ輸出志向工業化政策、そしてそのために外資を誘致し、東アジア全体が同様の貿易構造を持つにいたった。このことが非常に脆弱な地域としての生産構造、貿易構造を創出したわけで、このまま成長戦略を進んでいいのか、問題有りとするればどう対処すべきかに関して現実を踏まえ、深く分析する必要があった。

2. 研究の目的

詳細なデータをわかりやすくまとめ分析することによりアジアの経済発展モデルの類型を整理し、一時「東アジアの奇跡」とよばれた東アジア経済もその輸出先である欧米先進国が同時不況に陥ると脆弱なことであることを実証し、その対応策を提言することがこの研究の目的である。ローバスタな成長には外資の作る比較優位性ではなく独自の経済の独自性と強さが必要であり、そのためにはインフラ、セーフティ・ネットの強化が必要で、その現状をサーベイすることも研究目的のひとつ。

3. 研究の方法

- ① 最近の経済発展理論、アジア経済の発展経緯に関する文献調査。
- ② データの収集・整理
- ③ 海外共同研究者との密な連絡体制による、関連文献・データのさらなる収集および調査

- ④ アジア諸国の経済発展の類型を詳細な分析。フィリピンは輸入代替から輸出志向に移行し、現在は労働者を海外に送出するというパターンまた、タイは日本からの直接投資を受け入れ輸出産業を育てたが、いまやCPをはじめとして周辺諸国や中国にもタイ企業は進出。こうした実情を豊富な統計数値で類型化する。
- ⑤ Trade Intensity等を計算することにより、どれほど、東アジアで生産そして流通ネットワークが深化したかを実証する。
- ⑥ セーフティ・ネットの実情をSrawooth Paitoonpong博士と共同調査。
- ⑦ インフラ構築の重要性をアジア開発銀行・国際連合ESCAPといった国際機関の果たす役割という観点で詳細に検討。以上を総合し、「アジアの経済発展モデル」をまとめる。

4. 研究成果

(1) アジア経済の発展は世界の注目を集めて久しい。多くのアジア諸国は外国投資を誘致し、輸出促進の経済開発を推進した。1997年にアジア経済危機が発生、奇跡には脆弱性があることが明らかとなったが、この経済危機に対しても、アジア各国はそれぞれ異なった対応をみせ、概ね素早く制度を改革し、新たな成長を加速させた。特に巨大な人口をかかえる中国とインドが、その将来のビジネス・チャンスの大きさから、さらなる注目を集めることとなった。中国は外国資本を梃子に輸出促進の経済成長を遂げたが、対米、対EUに巨額の貿易黒字が発生し、人民元の切り上げ圧力に苦慮している。インドはその規模に比して製造業が弱い、その一方、サービス産業、ことにIT関連産業が非常に強い。ASEANはまた各国独自の発展の様相を呈してきた。

加えるに2008年秋から米国発の金融不況がアジアを襲った。輸出先として米国に依存してきた経済は、為替レートの変動と輸出減に見舞われた。

(2) まずアジア全体での比較優位構造の類似性が問題である。このことを実証した。全産業で比較優位上位にある産業を比較してみると、フィリピンと韓国は同様の産業となっていることが判明した。両国ともSITC7に属する産業が輸出額も多く上位にくるのである。

Philippines			Korea				
S3-56	FERTILIZER,EXCEPT GRP272	83,598,290	1.36	S3-57	PLASTICS IN PRIMARY FORM	11,610,920,148	2.06
S3-57	FERTILIZER,EXCEPT GRP272	8,222,206,292	1.36	S3-79	OTHR.TRANSPORT EQUIPMENT	22,290,703,149	1.39
S3-42	FIXED VEG. PATS AND OILS	979,845,899	3.27	S3-67	IRON AND STEEL	15,823,594,780	1.81
S3-63	CORK, WOOD MANUFACTURES	666,588,029	3.08	S3-87	SCIENTIFIC EQUIPMENT NES	16,222,852,895	1.70
S3-06	SUGAR,SUGR.PREPTS,HONEY	135,893,857	2.98	S3-33	PETROLEUM,PETROL.PRODUCT	20,788,769,554	1.60
S3-05	VEGETABLES AND FRUIT	962,817,429	2.81	S3-61	LEATHER, LEATHER GOODS	845,550,151	1.61
S3-62	DAIRY PRODUCTS,BIRD EGGS	93,870,621	2.78	S3-76	TELECOMM.SOUND EQUIP ETC	37,300,384,796	1.57
S3-12	TOBACCO,TOBACCO MANUFACT	138,489,507	2.19	S3-78	ROAD VEHICLES	42,418,414,146	1.53
S3-75	OFFICE MACHINES,ADM MACH	8,177,541,900	2.06	S3-51	ORGANIC CHEMICALS	12,549,418,594	1.52
S3-68	NON-FERROUS METALS	1,389,739,498	3.73	S3-56	FERTILIZER,EXCEPT GRP272	236,912,765	1.39
S3-28	METAL,FERROUS,ORE,SCRAP	495,576,983	1.73	S3-65	TEXTILE YARN,FABRIC,ETC.	10,109,505,237	1.32
S3-84	CLOTHING AND ACCESSORIES	2,624,402,309	1.64	S3-69	NON-FERROUS METALS	7,104,682,379	1.29
S3-88	PHOTO.APPARAT,NES,CLOCKS	798,781,757	1.53	S3-62	RUBBER MANUFACTURES, NES	2,971,250,346	1.13
S3-97	GOLD,NONMONTHY EXCL.ORES	300,477,058	1.45	S3-26	TEXTILE FIBRES	1,044,049,668	1.11
S3-81	PREFAB BLDGS,FTING ETC	194,359,899	1.40	S3-58	PLASTIC,NON-PRIMARY FORM	2,375,083,533	1.11
S3-29	CRUDE ANIMAL,VEG.MATERL	89,562,371	1.21	S3-77	ELEC MCH APPAR,PARTS,NES	48,545,900,145	1.10
S3-03	FISHL,CRUSTACEANS,MOLLUSC	387,399,114	1.11	S3-72	SPECIAL,INDUST.MACHINERY	9,778,781,680	1.03
S3-96	COIN,NONMOLD NONCURRENT	278,271	1.03	S3-53	DYES,COLOURING MATERIALS	1,144,260,275	0.99

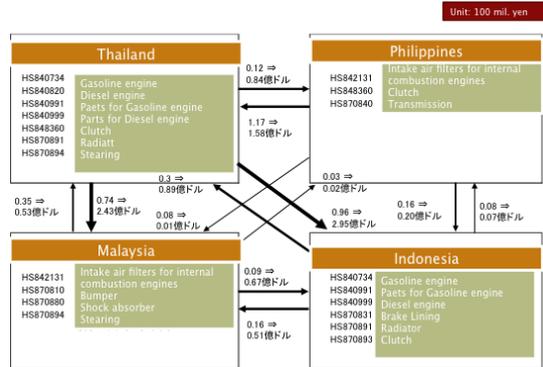
このことから、さらに SITC7 だけを抽出し、その顕示比較優位を比較したものが次である。

	CHN	INDO	MAL	PHL	SIN	THA	VIET	JPN	USA	KOR
China	1.00	0.65	0.81	0.34	0.44	0.55	0.32	-0.65	-0.75	-0.11
Indonesia		1.00	0.54	0.33	0.38	0.49	0.57	-0.73	-0.32	0.01
Malaysia			1.00	0.79	0.82	0.60	0.52	-0.71	-0.72	-0.16
Philippines				1.00	0.90	0.55	0.54	-0.44	-0.50	-0.13
Singapore					1.00	0.38	0.53	-0.48	-0.53	-0.27
Thailand						1.00	0.69	-0.40	-0.48	-0.39
Vietnam							1.00	-0.34	-0.20	-0.63
Japan								1.00	0.17	-0.11
USA									1.00	0.08
Korea										1.00

赤で示したところが SITC7 における比較優位構造の類似性が非常に高いところである。ことに中国とマレーシア、マレーシアとフィリピン、マレーシアとシンガポール、シンガポールとフィリピンの相関が 0.79 以上となっている。逆に日米はこうした各国とは、緑で示しているようにその相関がマイナスで大きな値を示していることからアジア各国とは補完的な関係にあることが分かる。これは日米が不況に陥るとここにあげたアジア諸国はすべてその比較優位構造の類似性ゆえに共倒れになる可能性が高いことを示唆している。日本が 1985 年以降、外国直接投資を梃子にアジア諸国で生産ネットワークを築きあげ、確かにその経済成長に寄与したが、その結果、非常に脆弱な生産構造を作ったことを意味している。

(3) 日本から直接投資を誘致し、輸入国から輸出に繁忙したひとつの成功例としては、タイの自動車産業である。タイの自動車産業の発展を位置づけ、ノックダウン組み立てから、直接投資を誘致し、アジア全域から部品を調達、オーストラリアや中東へ輸出するまでになった工業化の経緯を詳細に分析した。アジアのデトロイトを目指す工業化の過程を貿易データで跡づけ、自動車の輸入国から輸出国へとの変貌はそれ自体、ユニークな発展パターンであるが、輸出の大部分が日本車で、ある意味で借り物の工業化であることが明らかになった。タイの自動車生産がフィリピン、インドネシア、マレーシアと緊密な生産ネットワークを作っているのが以下の図でよく分かるであろう。

こうした生産ネットワークは他の産業でも同様である。



(4) 生産ネットワークの進展は、これまでそこに組み込まれていなかった諸国にも機会を与えるものである。ASEAN のニューカマーはまさにこうした状況におかれていて、おりしも、東西回廊の建設が GMS 諸国にこうした機会を与えた。生産ネットワークの進展は、東アジア全体に拡大しつつある。それを可能とし加速化させているのは、インフラの整備である。しかし、これに関しては民間部門に任せておくわけにはいかず、かといって GMS は多くの国にまたがる地域で、各国間での取り決めをはかるより、国際機関のリーダーシップで調整ができ、成功裏に機能している場合が多い。そうした実情をサーベイし、最近、重要な役割を果たしている東西回廊の建設をとりあげ、GMS 諸国に生産ネットワークが拡大しつつあることを新聞記事、国際機関レポート等で確認した。まだその成果を実証するにはデータ不足が足かせとなって、サーベイにとどまった。

(5) 高度な経済成長をとげた東アジアであるが、そのスピード故に一旦危機に陥ると、例えば 1997 年のアジア通貨危機、失業者が溢れ、タイの場合はほとんどが農村に帰り、農業とコミュニティがクッションとなった。先進国のようにセーフティ・ネットが充実していない。その意味でこれを充実させることが、輸出志向のアジア経済発展モデルをより強固にするものとなる。セーフティ・ネットの現状をサーベイする必要があるがここにあった。

(6) バリエーションはあるものの基本的にアジアの経済発展パターンは直接投資誘致、輸出産業の育成、それによる経済成長である。こういうパターンをとっ

たがゆえに、貿易構造が類似するものとなった。輸出相手国である欧米が不況に陥るとほとんどのアジアの国がそれに重大な影響を受けるという経済の脆弱性を持つにいたったのである。その解決策は国内需要や地域内需要を喚起するとともに、輸出先を多角化し、輸出産業類似の構造を脱却する必要がある。日本が円高で空洞化し、海外に産業の避難先を求め、生産ネットワークをアジアに構築したが、同じオプションは巨大すぎる人口大国中国やインドにはない。国際収支の不均衡を長年続けることは得策ではない。タイが1997年に推進した「足るを知る」経済は、今後のアジアの経済発展の行き先を示すヒントとなる。GDPで測る経済発展からの脱却が必要と言い換えても良いが、バランスのとれた成長が今後目指すべきものというのがこの研究の結論である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3件)

①Srawooth Paitoonpong, Shigeyuki Abe, and Nipon Puopongsakorn, “The meaning of ‘social safety nets’,” *Journal of Asian Economics*, No. 19, 2008, pp. 467-473.

②Shigeyuki Abe, “Philippines’ Competitiveness and Global Financial Meltdown: A Question of Japan’s Role,” *The Philippine Review of Economics*, XLVI 1, 2009, pp. 103-123.

③阿部茂行, 「アジア太平洋地域に求められるAPECの新機軸」『生活経済政策』, No. 161, 2010, 11-14頁。

[学会発表] (計 16件)

①阿部茂行「どうなる?アジアの水資源: 論点の整理」第9回アジア太平洋フォーラム・淡路会議「どうなる?アジアの水資源」2008/8/1 淡路夢舞台

②Shigeyuki Abe: “Japan’s Strategy for Economic Integration in East Asia” 同志社大学—ソウル市立大学校2008年共同夏季セミナー「21世紀観点から見た日韓経済関係の再照明—朝鮮通信使の足跡を訪ねて」2008/8/18 同志社大学

③Shigeyuki Abe: “Anatomy of Vietnam’s Trade Performance” *Asian Economic*

Integration in a Global Context” 18th Conference of the American Committee for Asian Economic Studies (ACAES) 2008/8/29-31 University of Bologna, Rimini Campus イタリア

④Shigeyuki Abe: “Future of Asian Integration: Rivalry or Complementarity” 第5回東アジア国際学術シンポジウム「21世紀の東アジア—平和・安定・共生—」2008/9/21-22 International House, Osaka

⑤Shigeyuki Abe: “FDI in Viet Nam: A Japanese Perspective” Conference on Emergence of Vietnam as a Middle Income Country: Opportunities, Constraints and Regional Implications 2008/10/30-31 Institute of Southeast Asian Studies, Singapore

⑥Shigeyuki Abe: “Philippine Competitiveness” Philippine Economic Society 46th Meeting on Competitiveness, Growth, and Equity in a Globalizing Economy 2008/11/13-14 Central Bank of the Philippines, Manila, Philippines

⑦Shigeyuki Abe: “What Trade Data and EPA Development show in East Asia? Are Regional Cooperation Mechanisms Sufficient To Handle Economic Crises?” ISIS The 6th East Asian Congress on Increasing Regional Resilience Amidst Rising Risks 2008/12/3-5 ISIS, Kuala Lumpur, Malaysia

⑧Shigeyuki Abe: “US Financial Meltdown and the Prospect of Asia” Doshisha Forum in Seoul on International Strategy with Korean Universities 2009/6/20 Lotte Hotel, Seoul

⑨Shigeyuki Abe: “ESCAP and ADB as Hub Organizations for Economic Cooperation” Mid-Term Review Workshop on Evolution of Institutions for Regionalism in Asia and the Pacific 2009/09/11 Asian Development Bank, Manila

⑩Peter Drysdale, Jong Wha Lee, Chalongsak Sussangkarn, Shigeyuki Abe: “ADB Keynote Policy Panel: Can Asia Sustain Growth?” 12th International Convention of the East Asian Economic Association Ewha Womans University 2010/10/2-3 Seoul, Korea

⑪Shigeyuki Abe: “Does the East Asian Growth Model Come to an End?: Critical Review of the Export-Led Growth of Asian Countries” Faculty Seminar, 2010/12/08 Nanyang Technological University, Singapore

⑫Shigeyuki Abe: “Will China follow Japan’s downward spiral?” ISEAS Special

Seminar 2010/12/9 Institute for Southeast Asian Studies (ISEAS), Singapore

⑬Shigeyuki Abe: “Service Trade of Japan: A Critical Survey” Maritime Institute Seminar 2010/12/13 National University of Singapore, Singapore

⑭Shigeyuki Abe: “Does the East Asian Growth Model Come to an End?: Critical Review of the Export-Led Growth of Asian Countries” Graduate Seminar National Institute for Development Administration, Bangkok, Thailand

⑮Shigeyuki Abe: “Does the East Asian Growth Model Come to an End?: Critical Review of the Export-Led Growth of Asian Countries” Brunei Univesity Faculty Seminar 2010/03/7 Brunei University, Brunei

⑯Shigeyuki Abe: “Does the East Asian Growth Model Come to an End?: Critical Review of the Export-Led Growth of Asian Countries” Chula Global Network Special Seminar 2010/03/30 Chulalongkorn University Bangkok, Thailand

6. 研究組織

(1) 研究代表者

阿部 茂行 (ABE SHIGEYUKI)

同志社大学・政策学部・教授

研究者番号：60140076